

保健体育

1 目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全 についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全 についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 改訂のポイント

- 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、発達の段階のまとまりを考慮し、小学校、中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化を図る。
指導内容の確実な定着を図る観点から指導内容を明確に示すとともに、学校段階の接続を踏まえ、第1学年及び第2学年においては領域の取り上げ方の弾力化を図る。また、第3学年においては特性や魅力に応じた選択のまとまりから選択して履修できるようにする。
- 体力の向上を目指し、「体づくり運動」の一層の充実を図るとともに、学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるようにする。
- 基礎的な知識の確実な定着を図るため、発達の段階を踏まえて知識に関する領域の構成を見直し、各領域に共通する内容に精選するとともに、各領域との関連で指導することが効果的な内容については、各領域で取り上げるよう整理する。
- 保健分野においては、個人生活における健康・安全に関する内容を重視し、指導内容を改善する。
- 健康の保持増進のための実践力の育成のため、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成する観点から、系統性のある指導ができるよう内容を明確にする。

4 評価規準と展開例

1) 単元名 第2学年 球技 ゴール型「サッカー」

2) 単元のねらい

- ・ 分担した役割を果たそうとしたり、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどサッカーの学習に積極的に取り組むことができる。 【運動への関心・意欲・態度】
- ・ ボール操作やボールを持たないときの動きのポイントを見つけたり、自己の課題やチームの課題を見つけたりすることができる。 【運動についての思考・判断】
- ・ ボール操作と空間に走り込むなどの動きやボールを持っている相手をマークする動きによってゴール前の攻防を展開することができる。 【運動の技能】
- ・ 技術の名称や行い方、試合の行い方などを理解することができる。 【運動についての知識・理解】

「国立教育政策研究所の評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」保健体育の球技1、2年生の設定例を参考に、各学年における指導内容を整理し、2年間を見通した「学習活動に即した評価規準」を設定する。

3) 単元の評価規準

【学習活動に即した評価規準】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
①サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ③仲間の学習を援助しようとしている。	①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ②自己やチームの課題を見つけている。	①ゴール前での攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや、守備の際にはボールを持っている相手をマークする動きができる。	①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。



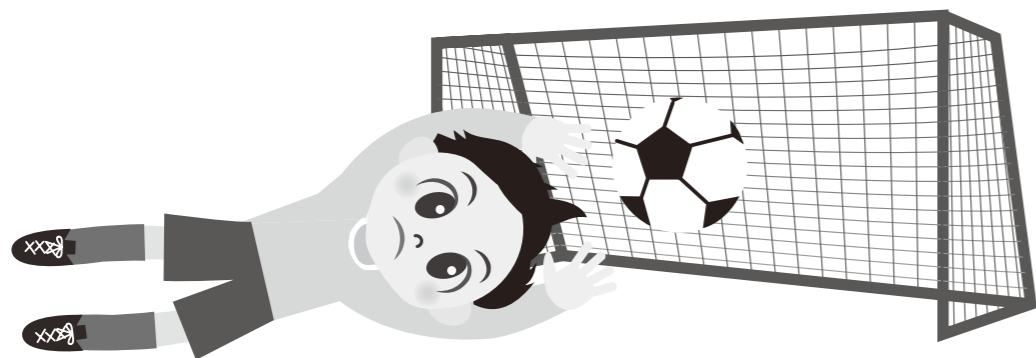
4) 指導計画と評価計画 (9 時間)

① 学習過程と評価機会とその方法

【関・意・態】 【技能】 □指導機会 ○評価

次	第1次	第2次							第3次	
		【ねらい1】 ・ボール操作や攻撃のための空間づくりを意識しながら、作戦や戦術を工夫してゲームを行う。			【ねらい2】 ・対戦チームや自分たちのチームの課題に応じた作戦を立ててゲームを行う。					
	1	2	3	4	5(本時)	6	7	8	9	
学習活動	10	オリエンテーション								
	15	準備運動・集合・挨拶・健康観察・課題の確認・ねらいや流れの確認								
	20	サッカーの特性の理解	スキルテスト	作戦タイム	スキルテスト	スキルテスト	チーム別練習			
	25	学習の進め方の確認	基本的ボール操作の練習	シュート練習	作戦タイム					
	30	学習カードの活用	作戦タイム	ダブルボックスでの6対6のゲーム			11対11の試合			
	35	仕方を理解する。	6対6のゲーム	片付け・反省とまとめ・挨拶						
評価方法	関・意・態	①	① ②	②	③	③	③			
	思・判				②	①	①		②	
	技・能		①	①		①	①	①	①	
	知・理	①						②	②	

【評】「運動の技能」「運動への関心・意欲・態度」における評価は、技能の獲得や運動についての知識・理解をしてから意欲や態度等に現れるまでに一定の学習機会が必要になること、主に観察によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫が必要である。



② 指導と評価計画

【指】動きの理解や技能の習得の際に、つまずきが生じた場合は、その原因や解決方法を探っていくことができるよう時間をとって指導する。

時間	学習のねらい	おもな学習活動	評価規準 (評価方法)
1	○技術の名称について理解する。 ○学習に積極的に取り組もうとすることの重要性を理解する。	・オリエンテーション ・スキルテストを行う。 ・ためしのゲーム (11 対 11) を行う。	○技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 【知識・理解①】 (観察・学習カード)
2	ねらい1 基本的なボール操作や攻撃のための空間づくりを意識しながら、作戦や戦術を工夫してゲームを行う。	・基本的ボール操作の練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・パスとドリブルでボールを進める6対6のゲームを行う。	○学習に積極的に取り組もうとしている。 【関・意・態①】 (観察・学習カード)
3	○基本的なボール操作を身につける。 ○自分や仲間の考えを伝え合うことの重要性を理解する。	・スキルテストを行う。 ・基本的ボール操作の練習を行う。	○ゴール前での攻防に必要な基本的なボール操作ができる。 【技能①】 (観察・スキルテスト)
4	○仲間の学習を援助することの重要性を理解する。	・作戦を話し合う。	○作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 【関・意・態②】 (観察・学習カード)
5本時	○空間に仲間と連携して入り込み、シュートをするポイントを見つける。	・作戦を話し合う。 ・友達と協力してシュート練習を行う。 ・ダブルボックスのゲームを行う。	○ゴール前での攻防に必要な基本的なボール操作ができる。 【技能①】 (観察) ○自己やチームの課題を見つけている。 【思・判②】 (観察・学習カード)
6	ねらい2 対戦チームや自分たちのチームの課題に応じた作戦を立ててゲームを行う。 ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるためのポイントを見つける。	・スキルテストを行う。 ・提示された練習内容を理解し、自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・ゴール前の空間を生かした11対11のゲームを行う。	○仲間の学習を援助しようとしている。 【関・意・態③】 (観察・学習カード) ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるためのポイントを見つけている。 【思・判①】 (観察・学習カード)

【指】評価規準を整理した上で、指導内容と評価規準を確認する。

【評】「作戦盤」「学習カード」を活用することで、言語活動の充実を図る。

【指評】意欲を育むための知識について指導し、練習や試合の場面で評価する。

	○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。		
7	○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。 ○試合の行い方について学習する。	・提示された練習内容を理解し、自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・ゴール前の空間を生かした11対11のゲームを行う。	○ゴール前で攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや守備の際のボールを持っている相手をマークする動きができる。【技能①】(観察) ○試合の行い方について、本時のまとめにおいて、学習した具体例を挙げている。 【知・理解②】(観察・学習カード)
8	○自己やチームの課題を見つける。 ○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を展開することができる。	・提示された練習内容を理解し、自己のチームにあった練習内容を選択する。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・身に付けた技能や戦術を生かした11対11のゲームを行う。	○自己やチームの課題を見つけている。 【思・判②】(観察・学習カード) ○ゴール前で攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている所に走り込む動きや守備の際のボールを持っている相手をマークする動きができる。【技能①】(観察)
9	○試合の行い方について学習した具体例を挙げる。	・スキルテストを行う。 ・チーム別練習を行う。 ・作戦を話し合う。 ・身に付けた技能や戦術を生かした11対11のゲームを行う。	○ゴール前で攻防を展開するためのボール操作とゴール前の空いている場所に走り込む動きや、守備の際にはボールを持っている相手をマークする動きができる。 【技能①】(観察・スキルテスト) ○試合の行い方について、本時のまとめにおいて、学習した具体例を挙げている。 【知識・理解②】(観察・学習カード)

30分	5. 技術のポイントの説明を聞く。	○本時のねらいが確認しやすいように、作戦盤を使って説明する。 指 作戦盤をつけて、視覚的に示すことにより理解を深め、チーム別の話し合いの充実を促す。
	6. 作戦盤を使って、シュートに結びつく空間の作り方とその練習方法を話し合う。 7. 話し合いを生かしたシュート練習を行う。 8. ボックスゲームを行う(6対6) <small>〔ボックスゲームとはミッドフィールドを無くしたコートによって、ゴール前で攻防をより多く展開できるようにしたものである。〕</small>	○各チームの話し合いを観察し、作戦盤を使ってシュートに結びつく空間の作り方の例を示しながら助言する。 ○シュートをねらうための、ポジショニングと強いシュートのうち方について助走や踏み込み、足首の固定等について助言する。 ○仲間と連携し、ゴール前に空間を作り出し攻撃するよう助言する。 ☆練習やゲームの際、仲間の学習を援助しようとしている。 【関・意・態】(観察) 評 4時間目に「練習の際、互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして、取り組むこと」について学習し、4時間目から6時間目までを評価期間とする。
10分	9. 整理運動、用具の片付けを行う。 10. 本時のまとめを行う。 ・チームで課題の確認を行い、本時の学習記録をまとめる。 ・教師の評価を聞く。 ・健康観察と次時の連絡を聞く。 11. 挨拶、解散。	指 前時で学習した運動の行い方のポイントを提示し、話し合いの内容を空間に走り込みシュートすることに絞る。 ○チームの話し合いの内容を確認し、必要に応じて助言する。 ○練習時やボックスゲーム時の各チームの良い動きや発言を賞賛し、広めるようにする。 ○本時の目標の反省と評価項目の内容を学習カードに記入させる。

5) 本時の学習

評 本時では、運動への関心・意欲・態度について評価を行う。運動についての思考・判断の評価については、前時で評価をしているが評価しきれなかった部分や際だったものについてだけ評価する。

① 本時のねらい

- 練習やゲームの際、仲間の練習を補助したり仲間に助言したりして取り組んでいる。
【運動への関心・意欲・態度】
- 空間に仲間と連携して走り込み、シュートをするポイントを見つける。
【運動についての思考・判断】

② 本時の展開

過程時間	学習活動	○教師の支援 ☆評価の視点【観点】(方法)
10分	1. 集合、整列、挨拶、健康観察 2. 準備運動 3. コート、用具の準備 4. 本時の目標・学習内容を知る 指 学習課題を明確にすることで、学習の見通しがもてるようにする。	○素早く移動して、準備にとりかかっているチームを認める。 ○本時の目標が確認しやすいように、作戦盤を用意する。 ○見通しを持って学習できるように、学習の進め方を掲示しておく。 指 授業の終わりに、チームの振り返りを行うことを伝え、他者への関心を高める。

空間に仲間と連携して走り込み、シュートをするポイントを見つけよう！

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への支援
運動への関心・意欲・態度	・練習の際、自主的に互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組もうとしている。 ・それぞれの個性や立場を尊重して、前向きな助言によりゲームの志気を高めようとしている。	・練習の際、互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組もうとしている。 ・前向きな助言によりゲームの志気を高めようとしている。	・お互いに助け合うことは、相互の信頼関係を高めたり、課題解決に役立ったり、自主的な活動を行いやすくすることなどを説明し、声かけをする。
運動についての思考・判断	・自分やチームの特徴を踏まえ、ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動のポイントを見つけている。	・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動のポイントを見つけている。	・うまくいかない原因を説明し、作戦盤やビデオ等を活用して、運動のポイントを明らかにする。